

# 「令和3年度農福連携推進ブロックセミナーin九州」の開催結果の概要



【基調講演の様子】

1. 開催日時：令和4年2月14日（月） 13：30～16：40  
（Cisco Webex Meetings によるオンライン開催）
2. 参加者：神奈川県、富山県、沖縄県を含む10県から77名が参加
3. 基調講演の概要 講演者：農研機構 西日本農業研究センター 中本英里氏
  - （1）農業サイドと福祉サイドの現状・課題
  - （2）障害者による農業の取組み～福祉事業所と農業側の関係タイプ別に～
  - （3）農業と福祉の連携過程、取組効果・要件
  - （4）今後の課題

## 4. パネルディスカッションの概要

- （1）コーディネーター 中本英里氏  
パネラー 藤戸小百合氏、泉 俊雄氏、國政 和子氏、興梠 理氏
- （2）パネラーの主な発言
  - ① 初期の受委託作業料金は、仲介者が第3者的な立場から調整・設定するのが有効
  - ② 依頼する農家は、農作業の補助目的で依頼する者と、担い手・主戦力として依頼する者の2タイプが存在
  - ③ アンケート等で把握するニーズ情報（夏場の野外作業を外す(宮崎)等、健康面を考慮、農業・福祉側の互いが求める作業時間帯の相違、通年作業の確保など課題面も)
  - ④ 作業を請負う福祉側としては、志す方向性が一致する生産者の依頼を重視
  - ⑤ マッチング後のフォローの重要性
- （3）質 疑
  - Q「農福連携アドバイザー」と「農福連携コーディネーター」の役割の違い
  - A アドバイザー【農業職OB】が県内で農福連携に興味がある農業経営者情報の収集・提供を担い、コーディネーター【福祉関係者】は、提供を受けた農業側ニーズと福祉事業所とのマッチング（興梠氏）
  - Q 重い障害を有している方の利用が多い就労移行支援B型事業所のマッチング例を紹介して欲しい
  - A ミニトマト栽培農家の依頼を受けマッチングした事例がある。作業内容は、ミニトマトの収穫と出荷のためのパック詰め（興梠氏）



【パネルディスカッションの様子】